

環境と市場

第一部 規制に揺れる

地球規模で取り組む環境対策が、さまざまな商品やサービス市場に影響を与え始めた。有害物質の排出規制や資源の有効活用など多くの分野で市場は対応を迫られている。新たな市場が登場する一方、のしかかるコスト負担、企業と個人の意識格差など課題も浮上している。環境問題は価格形成メカニズムをも揺るがす大きなテーマとして存在感を増しつつある。

「砂糖はエネルギー商品に生まれ変わった」

「砂糖から作られるエタノールを自動車燃料に活用する動きが世界で広がっている。砂糖の国際価格はこの一年で六〇％上昇し、昨年末には一九

燃料代替 価格体系に異変



使用済み食用油の燃料への活用も始まっている
(東京・白田が丘)

砂糖、エネルギー商品に

九五年以来の高値を付けた。エタノール向け需要が拡大し、価格上昇の要因として定着しつつある。

エタノール利用の先進国は、砂糖の世界最大の生産国でもあるブラジルだ。生産量は世界の四割

出量は前年比三倍の二百二十六万トンに膨らんだ。ブラジルの有望な輸出品に育っている。

京都議定書の議長国を務めた日本は二酸化炭素(CO₂)の排出削減という国際的な責務を負

最近の主な環境規制(予定を含む)

名称	主な内容
1月	自動車リサイクル法施行 EU連合(EU)の自動車排ガス規制(ユーロ4)
2月	京都議定書発効 米國で包括エネルギー法成立
4月	東京都の環境確保条例の改訂 改正省エネ法施行 改正大気汚染防止法本格施行 改正地球温暖化対策推進法施行
7月	EUによるRoHS指令発効
10月	特殊自動車排ガス規制強化

EUで〇五年一月に新車の排ガス規制を強化する「ユーロ4」が発効した。価格がプラチナの約四分の一のパラジウムも触媒に利用されるが、硫酸の排出量が多いディーゼル車はプラチナでなければ対応できない。

〇五年のプラチナの触媒向け需要は百二十と〇〇年比約二倍。中国やインドなどでの自動車の普及に加え、環境規制の影響で今後世界で年間十五割ずつ増える(第

トが稼働する。近い将来バイオ燃料の市場は日本でも飛躍的に拡大する可能性を秘めている。

宝飾材料としてなじみの深いプラチナ(白金)用途の約半分が自動車の排ガス触媒向けだ。燃料に含まれる硫黄分を取り除く性能が高く、新たな環境規制で市場のすそ野が広がっている。

EUで〇五年一月に新車の排ガス規制を強化する「ユーロ4」が発効した。価格がプラチナの約四分の一のパラジウムも触媒に利用されるが、硫酸の排出量が多いディーゼル車はプラチナでなければ対応できない。

「砂糖はエネルギー商品に生まれ変わった」
「砂糖から作られるエタノールを自動車燃料に活用する動きが世界で広がっている。砂糖の国際価格はこの一年で六〇％上昇し、昨年末には一九

成長が続いている。改正法の影響は不織布市場にも及ぶ。低迷する衣料向けに代わり、換気扇フィルター用の需要が好調だ。新築家屋には原則としてすべての部屋に換気設備を設置しなければならぬ。空調関連製品の製造販売を手掛ける松本エレクトロニクス(愛知春日井市)によると、